

アサヒ飲料(株) 技術研究所



環境にやさしく安全安心な商品をつくり続ける技術力

技術研究所では、どうやったら1本でも多く、安全でおいしい商品を製造できるか、効率的な生産方法、商品の品質、安全面での製造技術の向上を目指し、日々研究を重ねています。ラボスケールでの製造テストや新たなペットボトル容器の開発、容器包装技術の開発に加え、微生物分析や理化学分析といった中味の安全、安心を支える技術の研究も行っています。

安全・安心

お茶、コーヒー、ミネラルウォーター、果汁、炭酸、乳性飲料における微生物制御、迅速検出、同定技術の開発に取り組んでいます。

ブランド価値向上

商品設計技術の高度化・体系化につながる各種飲料含有微量成分解析技術の開発に取り組んでいます。

容器開発

ユーザビリティの向上、軽量化など、魅力ある容器開発に取り組んでいます。PETボトルでは設計から量産展開まで一貫して行っています。

研究

■「カルピスウォーター」500ml「ホワイトボトル」の開発

【受賞歴】(公財)日本デザイン委員会 2017年度グッドデザイン賞

さらにおいしさを感じていただくため「カルピスウォーター」のPETボトルを17年ぶりにリニューアルしました。パネルの凹凸を極力除いて白い液色が見える面積を増やし、強度の確保と美粧性を両立させた独自の形状を開発しました。また中央部を絞った形にすることで、持ちやすさにも配慮しています。

■リアルタイム微生物計数システムを業界で初めて導入

より安全・安心でおいしい商品をお客さまへお届けするための技術開発として、最新の微生物検出器を機器メーカーと共同で評価・検討しました。この機器は、深紫外線の照射により液体中に存在する微生物を高感度に検出できるため、従来のような時間がかかる培養作業が不要となります。また飲料工場での微生物計数を、製造工程中に組み込み自動で実施することができ、安全性の強化に寄与します。このシステムを清涼飲料業界では初めて、工場(アサヒ飲料(株)富士山工場)へ導入しました。



■オールバイオ資材の「三ツ矢サイダー」の開発

【受賞歴】

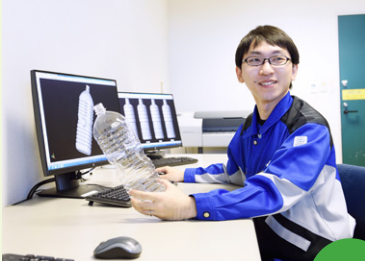
(公社)日本包装技術協会 2017日本パッケージングコンテスト 飲料包装部門賞

(公社)日本包装技術協会 第42回木下賞 包装技術賞

(公財)日本デザイン委員会 2017年度グッドデザイン賞

世界包装機構 ワールドスター2018 ワールドスター賞

環境負荷低減への取組みとして、植物由来の原料を使用した容器包装の開発を行っています。バイオ資材を使用した「三ツ矢サイダー」では、ボトルとキャップでは各30%、ラベルは業界最高水準となる75%のバイオ資材を使用し、数量限定で市場に展開しました。



技術研究所 容器包装G

伊藤 悠太 Yuta Ito

2013年入社

— 私のチャレンジ —

100年後の未来まで愛されるPETボトルをこの手で世に送り出したい

PETボトルの容器開発を研究テーマにしています。当社では自分たちでデザインを描き、試作を繰り返しながら自社で製造します。飲料メーカーですので容器は主役ではありませんが、目に留まり手に取ってもらえるデザインや持ちやすさなど、お客さまに喜んでもらえるものを目指しています。近年、PETボトルは環境配慮の観点から薄肉化が進んでいます。それでも強度を高める必要性があり、ユー

ザビリティを考慮した形状は難しい課題です。また、工場では大量生産するために形状にも制限がかかります。そういった制約の中で試行錯誤を重ねてデザイン性、機能性を追求するところに苦労は伴いますが、完成品がお客さまの手に届いた時には、大きなやりがいを実感します。100年後も同じ形で使われているような、長くお客さまに愛される画期的な商品をつくりたいと思っています。